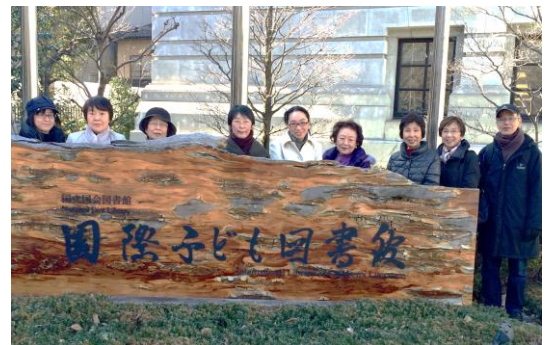


## 上野「国際こども図書館」見学会 ＝国内外の児童書約40万冊を収集・保存＝ 外観は歴史建築、内部は超モダンでゆったり

2月19日(木)上野にある国立国会図書館の支部図書館で、1906年に帝国図書館として建設され、その後増築・改修により2002年全面開館した「国際こども図書館」の見学会を開催しました。広報委員会の呼びかけに児童サービス応援委員会の委員や会員を含め10名が参加しました。

上野駅に集合した参加者は上野公園を通り、東京芸術大学に隣接する図書館へ向かい、まずは東京都選定歴史的建造物に指定されているルネサンス様式の代表的な明治期洋風建築の玄関前で記念撮影。ガラス張りのエントランスに入り、一緒にツアーに参加された方々を含め約20名のグループによる見学が2時からスタートしました。



### 理念は「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」

この図書館は国内外の児童書に関する図書館サービスを国際的な連携の下に行う国立の児童書専門図書館で、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」という理念に基づき、子どもと本のふれあいの場、子どもの本のミュージアムとしての役割を担っています。職員から案内された見学はまず1階の「おはなしのへや」から。毎週土・日に30分、職員によるおはなしかいが開催され、4歳以上の子どもの親は入室禁止とのこと。かわいい椅子が置いてありました。続いて「子どものへや」へ移動、室内は大きな円形の書棚があり、内側には日本の子供の本の原作本と外国語で翻訳された本が並んで展示されていました。見学時の特集は「くつ」で題名は勿論、本の中にくつが描かれた絵本



も多数集められ“面だし”されていました。明治時代の稀覯本も所蔵されている「世界を知るへや」を通り、白御影石の階段を上り、2階の資料室を見学。世界の児童書を中心に配架されています。その後、エレベーターで6階の書庫

見学へ。4階からこの階まで約40万冊の児童書や雑誌が法定納本制度に基づき収集され、国立国会図書館分類表により保存されています。(次ページに続く)

日時 平成二十七年四月二十五日(土)午後2時から  
場所 葛飾区立中央図書館 会議室1

第8回「葛飾図書館友の会」総会開催のお知らせ  
「友の会」はこの4月で8年目の活動に入ります。これまでさまざまなイベント・講演会・見学会をはじめ、映画や音楽会、お話会の開催、広報紙の発行などを行ってきました。左記の日程で第8回総会を開催します。図書館に関係するボランティアやアイデア実現のために一緒に活動していきませんか。皆様の参加と「友の会」への加入をお待ちしています。参加は自由です。詳細が決定次第、ポスターやチラシ、ホームページなどでご案内します。

## 閲覧・複写の利用のみで、電子化した 資料・情報の提供はホームページから



最後は3階へ行き、高さ9メートルの位置にある天井や柱が白漆喰で装飾された「本のミュージアム」は安藤忠雄氏デザインによる木製の2本の展示塔があり、ゆったり。子どもたちに安心感を与えらるという、まるでおとぎの国や小さな神殿を思わせる斬新さ。同階のホールにはふれあいコーナーとして「絵本ギャラリー」があり、絵本の発祥から20世紀初頭までの流れを画像や音声によりパソコンで楽しむことができます。窓からは東京スカイツリーが望めます。この図書館の所蔵資料は国内本約25万冊、外国本約8万冊、来館者は年間10万人（平成23年度）で、公共図書館経由での利用あるいは学校図書館などの施設にセット貸出しされますが、個人貸出しはできず館内での閲覧・複写のみ、ホームページからアクセス可能です。また現在別棟が建設中です。

「国際こども図書館」は歴史を感じさせる建物の外観とは打って変わって内部は古い黒い扉や壁を残しつつ、木を最大限に利用したモダンな造り。格調高く少々上品で、子どもたちの声が響く様子が想像できない、児童書の資料館あるいは博物館という雰囲気。気軽に利用するには・・・というのが率直な感想でした。

約1時間のガイドツアーを終了したあと、徒歩で日暮里へ向かい参加者の多くが谷中銀座を散策しました。

## 3回目を迎えた「新春かるた大会」

### 女子中学生が優勝 「図書館バッグ」をゲット

今年で3回目を迎えた友の会主催の「新春かるた大会」を1月3日(土)午後中央図書館で行いました。オープニングは朝野会長のギターによる宮城道雄の「春の海」の演奏から。参加者は大人18名、子ども4名を含め、橋本中央図書館長や友の会会員など30名。まず『かつしか郷土かるた』からスタート。大人の手が右往左往する中で、子どもの手が伸びほぼ圧勝。『小倉百人一首』では4～5名がグループになり予選会。各グループの上位2名が決勝戦に進出し、源平合戦に。使用したCDの調子が悪く、途中から肉声で上の句を読み上げるというハプニングがありましたが、中学1年の女子生徒が優勝。上位2名には友の会から図書館バッグが賞品として贈られました。この大会にはテレビ局2社が取材に来られ、ローカルニュースの中で放映されました。



## 葛飾図書館友の会

### 『葛飾協働まちづくり』表彰を受ける

「葛飾図書館友の会」が葛飾区の平成26年度葛飾協働まちづくり表彰団体に選ばれました。「友の会」は区民のボランティア団体として図書館を舞台にバラエティに富んだ活動を展開していること、その内容も各メンバーの人脈や経験を最大限に活用し図書館利用者に喜ばれていること、そして活動を通して区民の出会いの場、交流・学びあう機会を作っていることなどを中央図書館が推薦し表彰されたものです。3月30日(月)の区役所での授賞式には鶴岡副会長が出席しました。

葛飾 友の会 検索

クリックで友の会HPへ

アドレス：katsutomo.jimdo.co

＝ 葛飾図書館友の会の紹介やイベント情報いろいろ ＝



# “大音響で聴く・観る” クラシックコンサート 図書館所蔵の音楽・映像資料でプログラムを決定

## 友の会委員会の紹介 その3

## CD・DVDコンサート委員会

この委員会のスタートは、一見図書館とは関係ないようですが、戦後、若い人たちの公民館活動とともに図書館でのレコードコンサート開催が広く行われたことにヒントがありました。図書館所蔵のレコードもクラシック、POP、ジャズ、民謡、芸能など沢山のジャンルが揃えられていたようです。全国的に、毎週のようにファンがつどい、鑑賞し、サークル活動の源になっていたと考えられます。

オーディオ機器がホームステレオやウォークマンなどの発達で音楽鑑賞が個人化し、図書館利用の機能が失われ、コンサートの開催が行われなくなりました。

しかし、葛飾区内の図書館にもテープ、DVD、CDなどの資料が音楽をはじめ多数あることが中央図書館の開館を機に分かりました。

友の会の活動の一つとして、クラシック音楽のファンが自宅では体験できない大音量で鑑賞できる場を提供しようと、会員有志が委員会を発足させ、この3月で足かけ3年、ほぼ毎月開催して36回を迎えました。

クラシックの分野はとても広く、日本をはじめ諸外国のオーケストラ、指揮者、そして作曲家、楽器、時代背景、CDの音楽、DVDの映像などさまざまです。委員会メンバーも専門家というわけではないのでプログラムのアイデアや告知・設営などに毎回四苦八苦ですが、メンバーの努力で参加者数も安定してきました。アンケートから、感動と感謝の声も数多く寄せられています。さらに努力して継続し、クラシックファンの会員の皆さんが活動に参加されることをお待ちしております。

**第29回 図書館所蔵のCD・DVDコンサート**  
日 時=7月20日(日) 2:00PM~4:00PM  
会 場=葛飾区立中央図書館 会議室1  
●入場無料 ●定員=先着100名 ●主催=葛飾図書館友の会

どっぴり つかろう 甘美な旋律の世界

**メンデルズゾーン特集**  
DVDの映像と大音響のCDで聴く! 第1回



プログラム

- 第1部●
- 第2部●
- 第3部●
- 第4部●
- 第5部●
- 第6部●
- 第7部●
- 第8部●
- 第9部●
- 第10部●
- 第11部●
- 第12部●
- 第13部●
- 第14部●
- 第15部●
- 第16部●
- 第17部●
- 第18部●
- 第19部●
- 第20部●
- 第21部●
- 第22部●
- 第23部●
- 第24部●
- 第25部●
- 第26部●
- 第27部●
- 第28部●
- 第29部●
- 第30部●
- 第31部●
- 第32部●
- 第33部●
- 第34部●
- 第35部●
- 第36部●

**第33回 図書館所蔵のCDコンサート**  
12月28日(日)午後2時~4時(1時30分閉場)  
会場:中央図書館会議室1

**ベートーヴェン特集(第2回)**  
「月光」の演奏を堪能し、  
年末恒例、今年も「第9」で年忘れ!



【第1部】  
(1) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第14号 嬰ハ短調 作品27の2  
【月光】演奏:マウリツィオ・ボリー(1993年録音)  
【第2部】  
(2) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第23号 嬰ハ短調 作品57  
【第3部】  
(3) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第9号 変ニ短調 作品125 【合唱】  
【第4部】  
(4) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第21号 変ニ短調 作品109  
【第5部】  
(5) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第29号 変ニ短調 作品106  
【第6部】  
(6) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第32号 変ニ短調 作品35  
【第7部】  
(7) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第31号 変ニ短調 作品28  
【第8部】  
(8) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第28号 変ニ短調 作品28  
【第9部】  
(9) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第27号 変ニ短調 作品27  
【第10部】  
(10) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第26号 変ニ短調 作品26  
【第11部】  
(11) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第25号 変ニ短調 作品25  
【第12部】  
(12) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第24号 変ニ短調 作品24  
【第13部】  
(13) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第23号 変ニ短調 作品23  
【第14部】  
(14) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第22号 変ニ短調 作品22  
【第15部】  
(15) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第21号 変ニ短調 作品21  
【第16部】  
(16) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第20号 変ニ短調 作品20  
【第17部】  
(17) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第19号 変ニ短調 作品19  
【第18部】  
(18) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第18号 変ニ短調 作品18  
【第19部】  
(19) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第17号 変ニ短調 作品17  
【第20部】  
(20) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第16号 変ニ短調 作品16  
【第21部】  
(21) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第15号 変ニ短調 作品15  
【第22部】  
(22) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第14号 変ニ短調 作品14  
【第23部】  
(23) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第13号 変ニ短調 作品13  
【第24部】  
(24) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第12号 変ニ短調 作品12  
【第25部】  
(25) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第11号 変ニ短調 作品11  
【第26部】  
(26) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第10号 変ニ短調 作品10  
【第27部】  
(27) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第9号 変ニ短調 作品9  
【第28部】  
(28) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第8号 変ニ短調 作品8  
【第29部】  
(29) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第7号 変ニ短調 作品7  
【第30部】  
(30) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第6号 変ニ短調 作品6  
【第31部】  
(31) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第5号 変ニ短調 作品5  
【第32部】  
(32) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第4号 変ニ短調 作品4  
【第33部】  
(33) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第3号 変ニ短調 作品3  
【第34部】  
(34) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第2号 変ニ短調 作品2  
【第35部】  
(35) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第1号 変ニ短調 作品1  
【第36部】  
(36) ベートーヴェン作曲 ピアノ・ソナタ 第0号 変ニ短調 作品0


主催=葛飾図書館友の会 CD・DVDコンサート委員会

**第34回 図書館所蔵のDVD 映画上映**  
1月25日(日)午後2時~4時(1時30分閉場)  
会場:中央図書館会議室1/ 入場無料 定員100名

トルストイ原作/バレエ映画の名作  
20世紀最高のバレリーナ プリセツカヤ主演

**「アンナ・カレーニナ」**

1972年制作



CAST: マイヤ・プリセツカヤ 主演: マルガリータ・レリナ  
ウラジミール・チホノフ 原作: レフ・トルストイ  
ユリー・ウツェーミロフ 脚本: ボリス・リヴォフ・アンゼン

STAFF: 監督: マルガリータ・レリナ  
衣装: ビー・エル・カクタ  
振付: ユーリー・シモノフ  
脚本: ボリス・リヴォフ・アンゼン

【プリセツカヤの偉業】  
この映画は、20世紀最高のバレリーナ、マイヤ・プリセツカヤの偉業を、20世紀最高の作家、レフ・トルストイの偉業と対比しています。

主催=葛飾図書館友の会 CD・DVDコンサート委員会

### ★★★★★ 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！★★★★★★

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000 円、賛助会員は1口 2,000 円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、27年度年会費とご記入下さい。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では130円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者(打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん) Tel. 03-3607-9201

## 『死ぬまでに行きたい！ 世界の絶景—日本編』

詩歩 著（三オブックス）

朝野熙彦

今号から始める新連載では古典的な名著にこだわらず、最近出版されたユニークな本を紹介していきたいと思ひます。



「死ぬまでに行きたい！世界の絶景—日本編」は2014年に出版されたヒット作です。そのタイトルにインパクトがあるだけでなく、書籍という作品作りにも面白い経緯を持っています。

日本各地の絶景の写真集だといえばその通りです。しかし写真を眺めて楽しむだけではなく、現地へのアクセスの仕方、旅行に適した時期、そして必要経費まで書かれた旅行ガイドにもなっているのです。

しかもこの本はフェイスブックというSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の記事が原作であることが、いかにも今日的で、スマホやPCで詩歩さんの写真を見た人が「いいね」という反応ボタンをクリックしたとします。すると60万人というように人数がカウントされます。大勢の支持者がいることから紙媒体の本として出版することになり、さらにブログという口コミやネット

書店での読者レビューなどを通じて爆発的にヒットしていったのです。ちなみに日本アマゾンの国内旅行ガイド分野では2015年3月14日現在で5位になっています。本書の前著「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」と併せて累計30万部を超えるベストセラーになりました。

つまりインターネット上の口コミがこの本の出版を可能にしたのです。もう一つ本書の出版時期にも絶妙さがありました。2014年は団塊世代の元気あふれる方々がほぼ定年を迎えた時期にあたります。ハッピーリタイアメントを満喫する一つの活動として、それまでは行きたくても行けなかった旅行という選択肢が考えられるでしょう。

では私自身は、どれくらいこの本で紹介された絶景を経験しているのかを白状しましょう。この本では日本の60の絶景を取り上げています。その内、私が実際に旅行した地域は5か所ですが写真集の絶景を目にしたのは4か所にとどまります。そのギャップがどこからきたかと言いますと、「雪の鳥取砂丘」がそれです。たしかに以前、鳥取の砂丘には行ったことがあるのですが、その時は春だったので砂丘の雪景色を見ていないのです。この調子で、どの季節に、どの方角から眺めたときという限定つきの絶景なので、絶景を制覇するのは並大抵のことではありません。もちろん詩歩さんのお勧めになるすべての個所を制覇する必要などありませんが、ばらばらとこの本を眺めていてぜひ見たい絶景があったら冒険の旅をすればよいのです。たとえば阿蘇市のラピュタの道などは、ちょうど雲海が湧いてくれなければ絶景写真のようににはなりませんから、いわば賭けのようなものです。

本書は勤勉に働いてきた団塊世代のまさに琴線に触れる一冊といえるのではないのでしょうか。本の作りこみはフェイスブックに書き込まれた読者のメッセージを掲載するなど、若い読者にも読みやすいスタイルになっています。そう、WEBには「食ベログ」という口コミサイトがあって、レストラン利用者の「★いくつ？」が参考になりますが、食ベログの観光旅行版といえはこの本の性格がよく分かります。

（あさの・ひろひこ 葛飾図書館友の会会長）

## 色えんぴつ

突然、足がつって身体もフラフラしてきた。病院へ行くと思っても自力で立ち上がることも、長く立つこともできないので、車イス生活となった。リハビリしながら、もう2年あまりが過ぎてしまった▼以前から「友の会」の広報活動をしてきたので、この図書館はバリアフリーであること、障がいにも区別なく誰でも利用出来ること、と思いついてきた。しかし自分が障がいを持っているようになって利用すると、思いは変わっていった▼初めて車イスを使用して来館したら大変だったのである。館内は広いが床は音がひびくし、ガラス面が多いので緊張するし、怖い。イベントに参加する時も、会議室の入り口の大きなドアは自動ではないので苦労する▼今、電動の車イスを借りて使用しているが、どんなに動かす音を小さく静かにしても、迷惑そうな人の目や好奇な視線を感じ、気になる。あらためてバリアフリーの大切さを痛感した。障がいのある人たちと共存できる図書館であるよう考えていきたいし、少しずつ変わってほしい。

（栗竹広報委員）